

奨学金返還免除の推薦基準（物理学コース）

R6年度から適用

物理学コースでは理学院の選考基準を満たすものが学生支援機構に免除申請をする際に提出する資料¹⁾の中から、返還対象となる奨学金を受領した期間のものについて、下記の基準に従って評価する²⁾こととする。

修士課程				
	評価項目	評価基準	上限点数	合計点
1	学位論文 その他の研究論文	・ 修士論文発表会の評価	20	60
		・ レフェリー付き論文誌に掲載あるいは掲載が決定した論文のうち、主要な貢献をした論文数 ³⁾ ×10点、それ以外の共著論文数（最大4編）×3点 ・ レフェリー付きプロシーディングに掲載あるいは掲載が決定したもののうち、主要な貢献をした論文数 ³⁾ ×3点、それ以外の共著論文数（最大4編）×1点	25	
		・ 学会発表（国内） 登壇者として口頭発表した回数×2点 ポスター発表者となった回数×1点 ・ 学会発表（国際会議） 登壇者として口頭発表した回数×4点 ポスター発表者となった回数×2点	15	
2	授業科目の成績	・ 修了に必要な単位を取っていれば、10点 ・ 物理学コースが開講する講義科目 ⁴⁾ （特論・講究等は除く）で80点以上の点数がついた講義の単位数（最大10単位）×2点 ・ 修業年数の短縮を認められた場合、半年単位で×5点	30	30
3	研究又は教育に係わる補助業務の実績	・ TAの回数 ⁵⁾ ×1.25点 ・ 会議開催などに協力した回数×1点	10	10

博士課程				
	評価項目	評価基準	上限点数	合計点
1	学位論文 その他の研究論文	・ 博士論文発表会の評価	25	70
		・ レフェリー付き論文誌に掲載あるいは掲載が決定した論文のうち、主要な貢献をした論文数 ³⁾ ×10点、それ以外の共著論文数（最大4編）×3点 ・ レフェリー付きプロシーディングに掲載あるいは掲載が決定したもののうち、主要な貢献をした論文数 ³⁾ ×3点、それ以外の共著論文数（最大4編）×1点	30	
		・ 学会発表（国内） 登壇者として口頭発表した回数×2点 ポスター発表者となった回数×1点 ・ 学会発表（国際会議） 登壇者として口頭発表した回数×4点 ポスター発表者となった回数×2点	15	
2	授業科目の成績	・ 修了に必要な単位を取っていれば、5点 ・ 修業年数の短縮を認められた場合、半年単位で×5点	15	15
3	研究又は教育に係わる補助業務の実績	・ TAの回数 ⁵⁾ ×1.25点 ・ 会議開催などに協力した回数×1点	15	15

1) 免除申請をする際に学生支援課に提出する資料の例（現時点で予想されているものであり、さらに変更、追加される可能性がある）

学位論文
論文リスト
主要な貢献をした論文については別刷
学会発表の記録リスト
プログラムの抜粋
成績表のコピー
TAの雇用記録のコピー
その他の業績を証明するもの

- 2) 物理学コース独自の基準による合計点によってコース内の推薦順位を決める。

この合計点で他コースの奨学生と比較されることはない。

評価項目1, 2, 3の合計点(100点満点)の高いものを上位推薦者とする。

なお、同点者が複数いる場合は、次の手順で順位を決定する。

①評価項目1の得点が高いものを上位推薦者とする。

②上記①を考慮しても同点者が複数の場合は、評価項目1のうち論文誌の評価を優先する。

- 3) 主要な貢献をしたことを証明する書類を添付。これについては必ず指導教員と相談の上、用意する

4) 素粒子物理学発展, 原子核物理学発展, 場の理論I, 場の理論II, 量子情報, 宇宙論*, 天体物理学*, ハドロン物理学, 多体系の量子力学, 統計力学III, 固体電子論, 結晶物理学, 光と物質I*, 光と物質II*, 光と物質III*, 磁性体の物理*, ソフトマターの物理*, 量子輸送*, 超流動*, 超伝導*, ~~表面物理学*~~, レーザー物理*, 物理学ライティング基礎, 物理学プレゼンテーション基礎, 物理学ライティング発展, 物理学プレゼンテーション発展(*は1単位, それ以外は2単位)

生物物理学I*, 生物物理学II*, 光と物質IV*, 2次元物質の物理(表面物理学)*

- 5) 1クォーターの間に週1回のTAを1つした場合に1回と数える。ただし、理工系教養科目(物理学科目)及び物理基本実験のTAの場合にはそれを2回と数える。

- 6) 博士課程において、学振特別研究員(DC)採用決定により返還免除を申請する場合、博士論文発表会の評価に相当する点として15点の加点、さらにその時点までの講究科目の単位が修得できている場合には5点の加点を行う。